

## 歴史民俗資料館だより

### すきから 犁・唐すき

犁は、牛や馬に牽かせて田畑を耕す畜力耕耘機の農具です。田の代掻きの前の粗起しの際に使われました。粗起しは大変な重労働であったようです。牛馬のいない家では、人力で行わなければならず、牛馬のある家がうらやましかったといえます。この作業は、牛馬の扱いに慣れた人しかできず、牛馬の尻をたたきながら行いました。大変な重労働であったため、牛馬もやせてしまい、作業が終わると牛馬には、褒美に豆を煮てあたえたそうです。

犁は、麦の畝を作るのにも使われました。畝が斜めになつてしまうことが多く、牛馬の扱いに熟練した技術を要しました。

「すき」はもともと手で使う在来型スコップの鋤をさす言葉で、畜力耕耘機の「犁」の字は奈良時代から「からすき」と読み、今日まで両者を呼び分けてきましたが犁を「す

き」と呼ぶのは鋤をもたない地方の呼称でした。用語としては、歴史を踏まえて人の使う鋤を「すき」、牛馬に牽かせる犁を「からすき」と呼び分けるのが妥当と思われています。

犁を日本国内で鋤や人力鋤類から進化したとする見解があり

ますが、同形のものが東南アジアに広く分布していることや、カラ(唐)スキという呼称からも中国から伝播したと考えられます。

形態的には、①無床犁(深耕もできるが不安定で、技術を要する)②長床犁(浅耕用・耕耘の角度が固定して不自由・重量がある)③短床犁(深耕もできる・安定して使用できる)が地域性と歴史的性格を持って分布しています。

大正から昭和にかけて改良された近代短床犁が全国的に普及し、近代農業の推進力となったが、昭和三十年代には動力の耕耘機が出現してこれに代わりました。

資料館では、町民の皆さんから寄贈していただいた犁を民俗資料として保存しています。



### くんじょう 燻蒸(虫いぶし) 消毒のご案内

歴史民俗資料館の展示・収蔵品の燻蒸(虫いぶし)消毒を実施します。皆さんがお持ちの物品も同時に消毒希望される方はお申し込みください。

【月 日】12月28日(水)

【場 所】歴史民俗資料館

【対象物】布・紙・木類

1立方メートル未満の大きさで作製されたもの

【申込期限】12月16日(金)まで(電話可)

【搬入】12月28日(水)午前中

【搬出】1月4日(水)午前中

【料 金】無料

※消毒のため28日(水)の午後は休館とします。

## ごみ減量化コーナー



ごみを減らすためのキーワードに3R「リデュース、リユース、リサイクル」があります。今回は、3つめのR、リサイクルをご紹介します。

**Recycle (リサイクル)**とは、**原料に戻して、再生する**ことです。

ごみを燃やしたり埋め立てたりするだけでなく、もう一度資源として、有効に利用することをリサイクルと言います。

ごみを減らし、使えるものを繰り返し使っても、ごみを出さずに生活はできません。

しかし、それらのごみを分別し、町の資源回収やお店の店頭回収を利用することで、ごみの減量化はもちろん、資源の節約、地球温暖化の防止など、環境にやさしい効果もあります。

**「混ぜればごみ 分ければ資源」ごみの分別を徹底しましょう!**

3回にわたり、3R「リデュース、リユース、リサイクル」をご紹介いたしました。ごみを減らすため、できることから始めましょう!!